

フロイント産業株式会社
「経済産業省認定GNT企業」

JASDAQ
(証券コード 6312)

2019年2月期 決算説明資料

2019年4月22日

 **FREUND**

目次

- 2019年2月期 連結決算概況 . . . P.02
- 2020年2月期 連結業績・配当予想 . . . P.16

- 中期経営計画 . . . P.20

- <参考資料> . . . P.25
- <Factsheet> . . . 別紙

2019年2月期 連結決算概況



連結決算サマリ

- G E 80%施策の一巡の影響もあり、前期比減収・減益
- FREUND-VECTOR社は大型低採算案件の影響により大幅減益
- フロイント・ターボ社はLiB関連案件が急減速
- 化成品は順調に増収・増益

(単位：百万円)

	2018/2月期 通期		2019/2月期 通期		前期比増減	
	実績		実績	予想 (19/1/8付修正)	金額	%
売上高	19,801		18,408	18,000	△1,393	△7.0%
営業利益	1,971		1,223	1,000	△748	△37.9%
経常利益	1,994		1,326	1,100	△667	△33.5%
当期純利益	1,477		843	800	△634	△42.9%
一株純利益 (円)	85.69		50.15	47.49	△35.54	△41.5%
受注高	12,129		12,574	-	+445	+3.7%
受注残高	5,906		5,555	-	△351	△6.0%
設備投資	524		627	500	+103	+19.7%
減価償却費	344		344	300	+0	△0.0%
研究開発費	862		832	750	△30	△3.5%
ROA	7.7%		4.8%	-	-	-
ROE	11.6%		6.4%	-	-	-

機械部門：概況

● 分野別売上高

- 医薬品関連：ポストGE 80%の反動減を新製品がカバーできず
国内設備需要は底打ちの兆し
- 産業関連：中国向けLiB向け案件は急減速

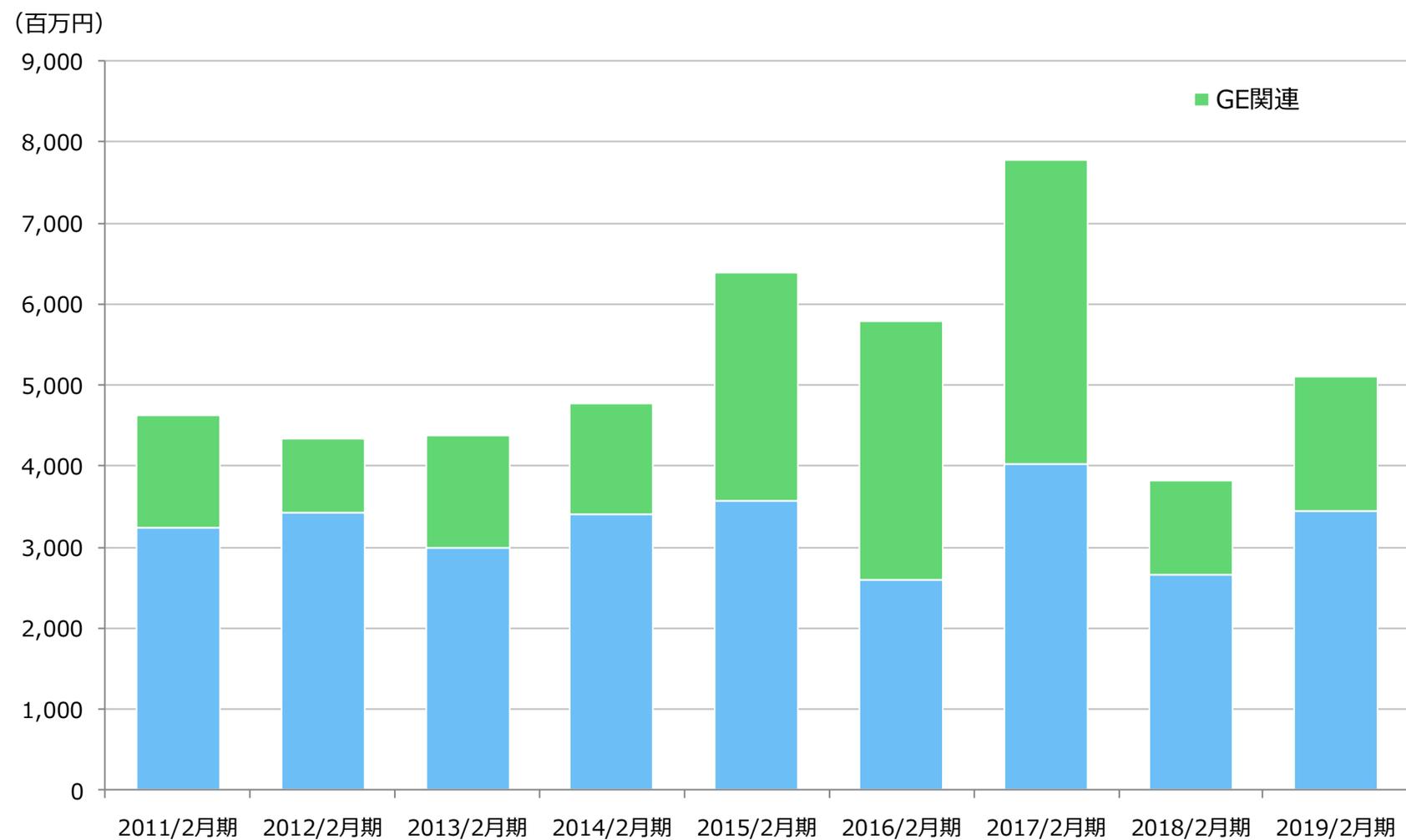
● セグメント利益

- FREUND-VECTOR社は大型低採算案件により大幅減益
- フロイント・ターボ社は赤字

(単位：百万円)

	2018/2月期		2019/2月期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	14,403	△ 3.4	12,368	△ 14.1
医薬品関連	12,300	△ 1.1	10,160	△ 17.4
産業関連	2,102	△ 15.0	2,207	+5.0
営業利益	1,631	△ 6.8	737	△ 54.8
受注高	11,513	△ 29.6	11,839	+2.8
医薬品関連	9,556	△ 32.2	10,204	+6.8
産業関連	1,956	△ 13.7	1,634	△ 16.4
受注残高	5,822	△ 32.0	5,428	△ 6.8
医薬品関連	5,025	△ 35.1	5,039	+0.3
産業関連	796	△ 2.8	388	△ 51.2
為替 (円/ドル：+は円安)	111.5	+2.0円/ドル	110.5	△1.0円/ドル

機械部門：国内医薬品向け受注高推移



機械部門：グループ会社別動向

- 単体 : G E 設備投資一巡感を新製品でカバーできず
- FREUND-VECTOR社 : 大型低採算案件の影響で大幅減収
- フロイント・ターボ社 : 産機向け受注環境は急減速

(単位：百万円)

	2018/2月期 通期		2019/2月期 通期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	14,403	△3.4	12,368	△14.1
単体	8,883	△6.0	7,075	△20.4
FREUND-VECTOR社	4,354	△7.9	4,132	△5.1
フロイント・ターボ社	1,722	+4.9	1,866	+8.3
営業利益	1,631	△6.8	737	△54.8
単体	1,425	+11.2	732	△48.6
FREUND-VECTOR社	86	△77.7	30	△64.4
フロイント・ターボ社	119	+49.7	△ 25	△121.6
受注高	11,513	△29.6	11,839	+2.8
単体	6,201	△40.1	6,671	+7.6
FREUND-VECTOR社	3,814	△20.5	3,989	+4.6
フロイント・ターボ社	1,497	+23.7	1,177	△21.3
受注残高	5,822	△32.0	5,428	△6.8
単体	3,999	△38.9	3,989	△0.3
FREUND-VECTOR社	1,218	△19.3	1,233	+1.3
フロイント・ターボ社	605	+19.0	205	△66.0

機械部門：地域別動向

- 日本：市場環境の変化（ポストG E 80%）の影響大
- 北米：米国内案件で苦戦
- 南米：ブラジル中心に設備需要の刈り取り中
- 欧州：EU圏における大型案件がなく減収

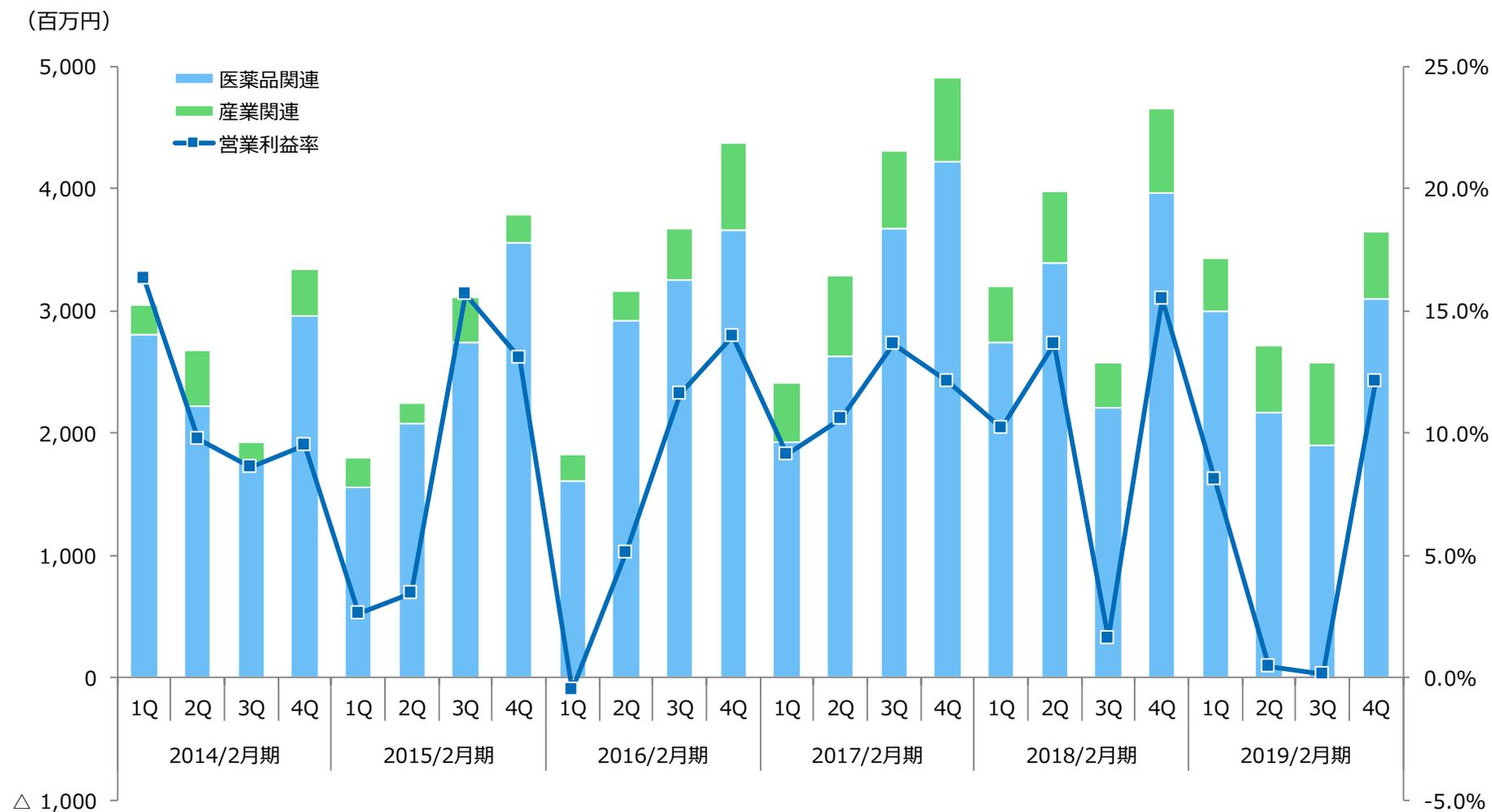
(単位：百万円)

	2018/2月期		2019/2月期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	14,403	△3.4%	12,368	△14.1%
日本	8,493	△10.2%	7,312	△13.9%
海外	5,909	+8.3%	5,055	△14.5%
北米・南米	2,979	△23.3%	3,352	+12.5%
欧州・アフリカ	1,782	+105.4%	397	△77.7%
中東・アジア・太洋州	1,147	+63.3%	1,306	+13.8%

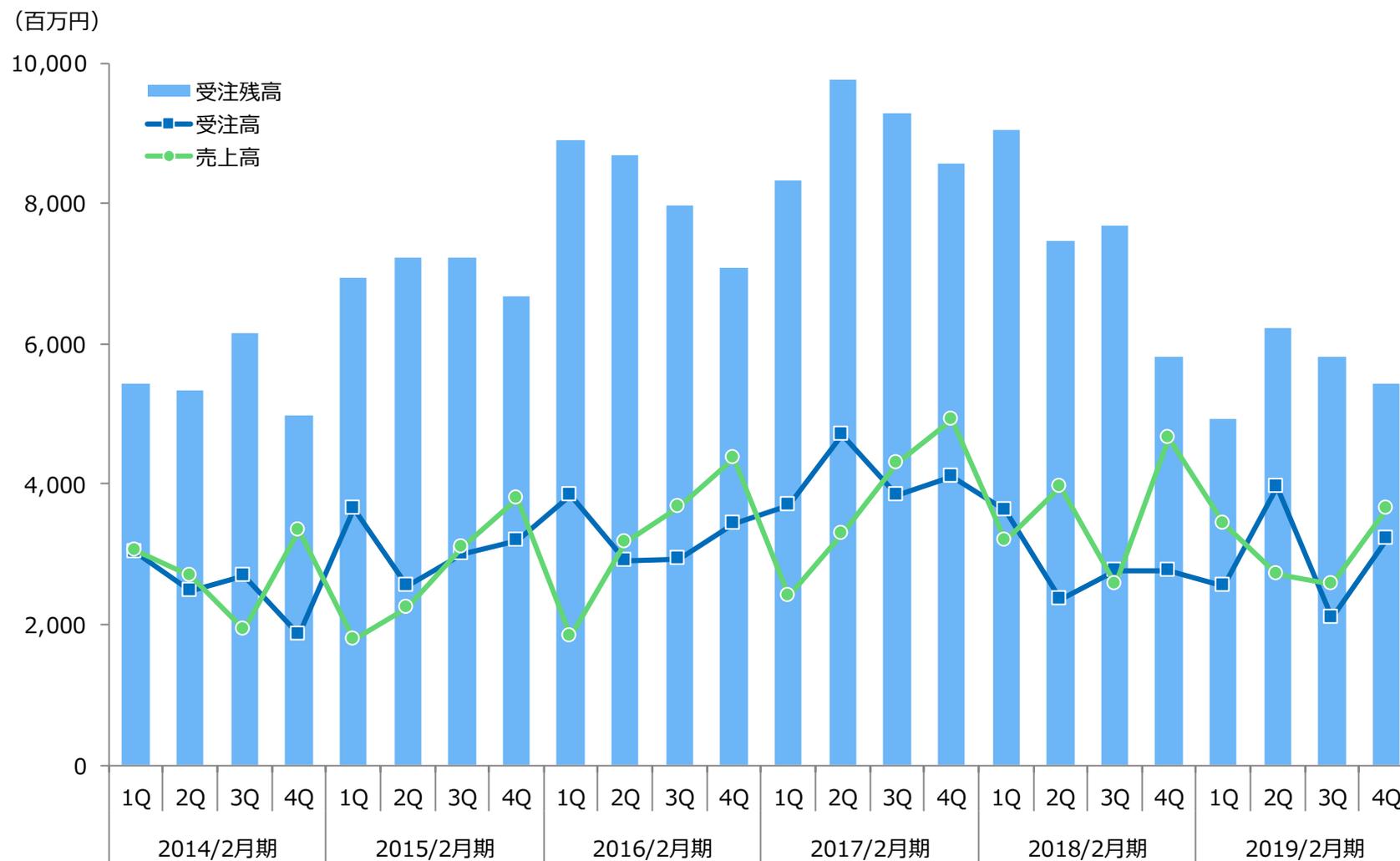
機械部門：四半期推移（分野別業績）

【売上高】

【営業利益率】



機械部門：四半期推移（売上高・受注高・受注残高）



化成品部門：概況

● 売上高

- 医薬品添加剤 : GEメーカー中心に増収・増益
- 食品品質保持剤 : 計画通りに増収基調
- 新規食品 : 減収であるが計画通り
- 輸出 : 生産体制の拡充によるインド向け販路拡大

● セグメント利益 : セールスマックス改善で伸長

(単位：百万円)

	2018/2月期 通期		2019/2月期 通期	
	金額	前期比(%)	金額	前期比(%)
売上高	5,398	△13.6	6,040	+11.9
医薬品添加剤	2,546	+8.0	3,195	+25.5
食品品質保持剤	2,091	+7.2	2,151	+2.9
新規食品	760	△60.8	693	△8.9
(輸出売上高) ※ 1	215	+98.7	353	+64.1
営業利益	801	+7.1	1,024	+27.9

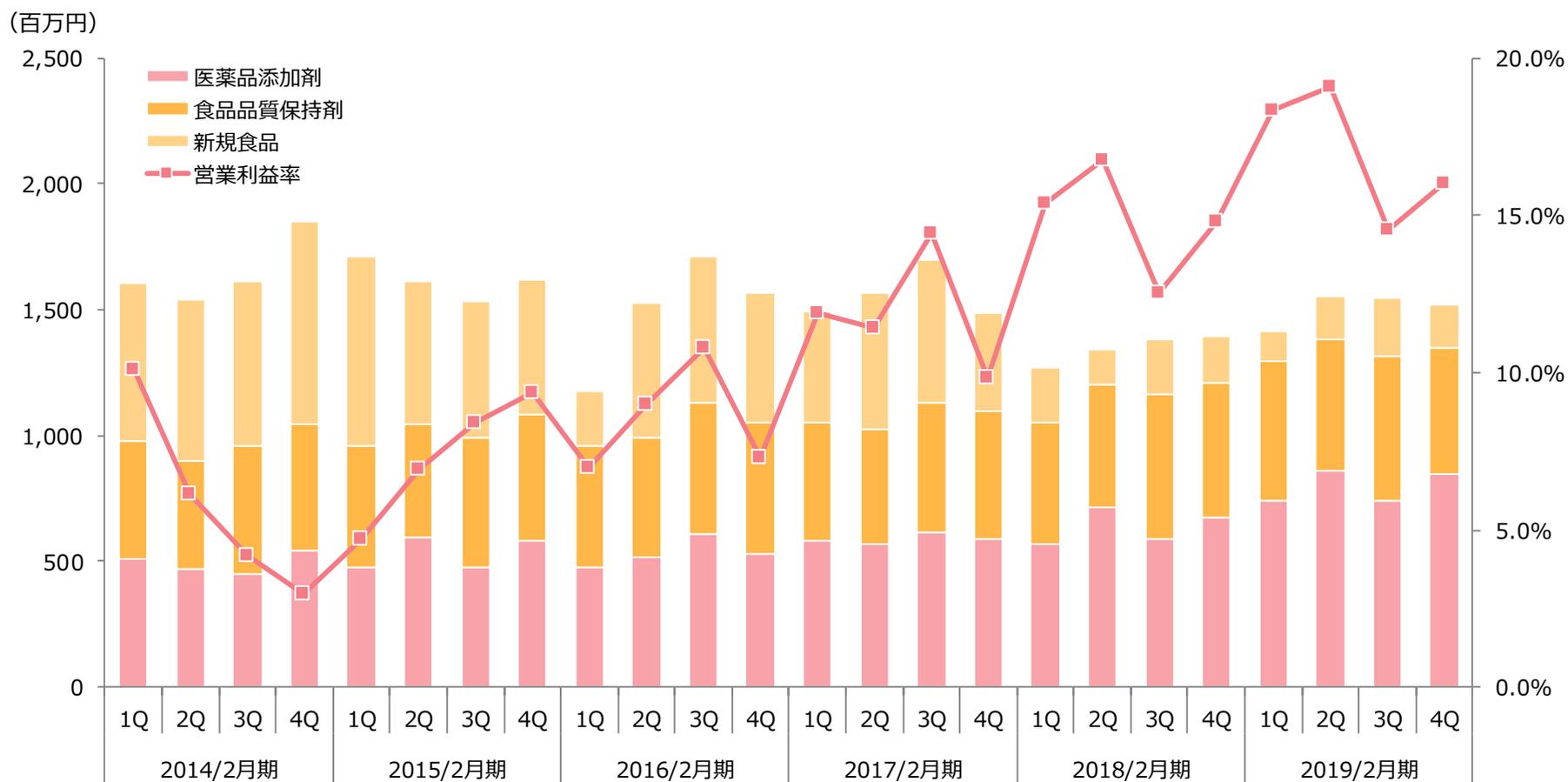
※ 1 主な輸出先：インド・韓国・台湾

化成品部門：四半期推移（分野別）

- 医薬品添加剤はG Eメーカーを中心に高収益製品で増収
- 医薬品添加剤は海外向けも案件数が増加基調

【売上高】

【営業利益率】



連結損益計算書サマリ

(単位：百万円)

	2018/2月期 通期		2019/2月期 通期		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
売上高	19,801	100.0%	18,408	100.0%	△1,393	△7.0%
売上原価	12,985	65.6%	12,220	66.4%	△765	△5.9%
売上総利益	6,816	34.4%	6,188	33.6%	△628	△9.2%
販管費	4,845	24.5%	4,964	27.0%	+119	+2.5%
営業利益	1,971	10.0%	1,223	6.6%	△748	△37.9%
営業外損益	22	0.1%	103	0.6%	+80	+352.1%
経常利益	1,994	10.1%	1,326	7.2%	△667	△33.5%
特別損益	99	-	△70	-0.4%	△169	-
税引前利益	2,093	10.6%	1,255	6.8%	△837	△40.0%
当期純利益	1,477	7.5%	843	4.6%	△634	△42.9%

営業外損益

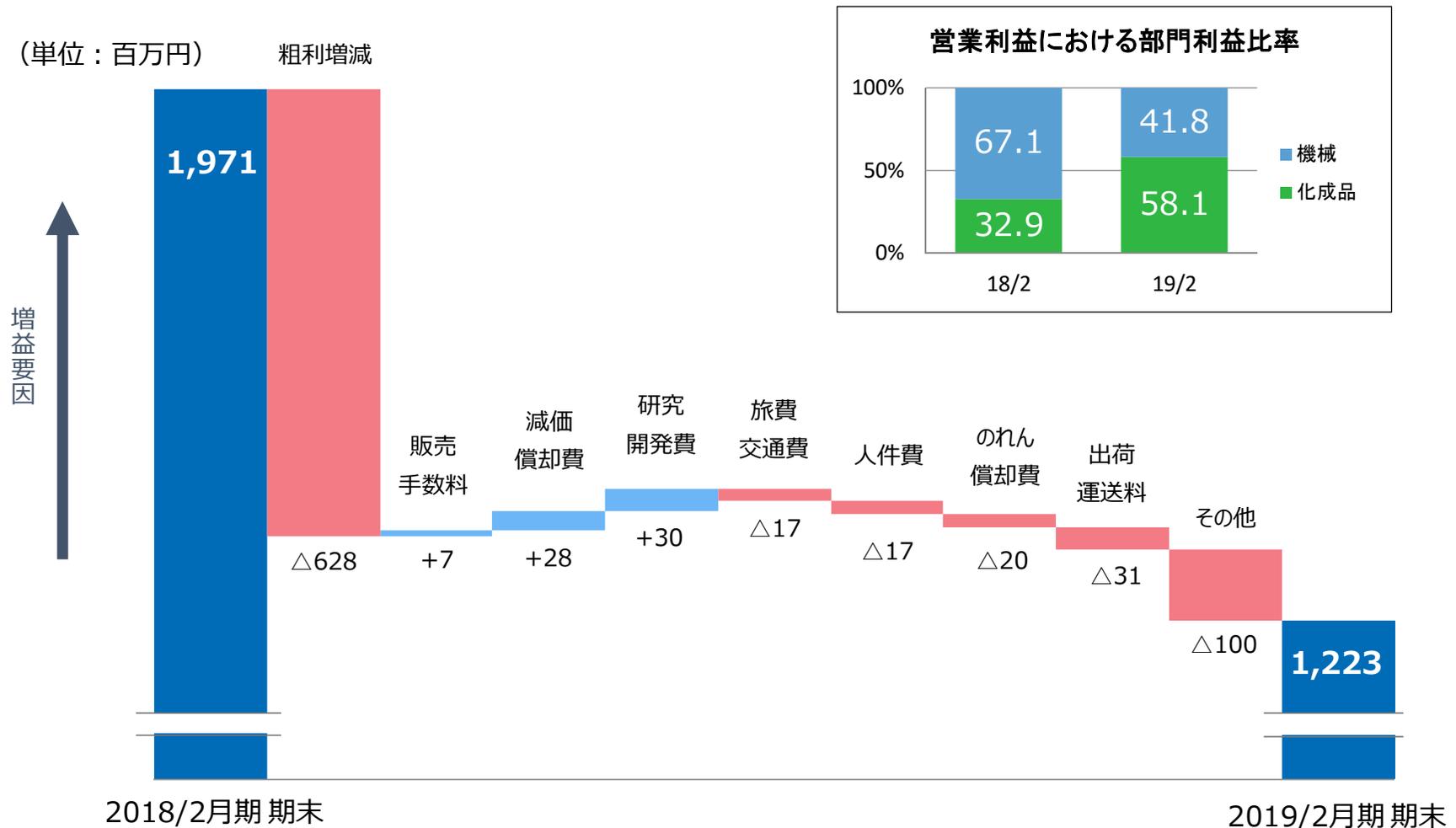
- ・受取配当金 64
- ・その他 41

特別損益

- ・投資有価証券償還益 23
- ・減損損失 91

連結営業利益増減分析

- トップラインの減少をコスト削減では補えず
- 機械・化成品が逆転



連結貸借対照表サマリ

(単位：百万円)

	2018/2月期末	2019/2月期末	増減額	
流動資産	14,784	12,881	△1,902	棚卸資産 ・商品・製品 +151 ・仕掛品 △922 ・原材料・貯蔵品 +131
現金及び預金	6,568	5,534	△1,033	
売上債権 ※1	4,451	4,332	△118	
棚卸資産	3,185	2,475	△710	
固定資産	4,341	4,583	+242	有形固定資産 ・機械装置及び運搬具 +257 ・建物仮勘定 +198 ・その他 +188
有形固定資産	3,370	3,769	+398	
無形固定資産	102	16	△86	
投資その他資産	868	797	△70	無形固定資産 ・ソフトウェア △46
資産合計	19,125	17,465	△1,660	
流動負債	5,564	3,938	△1,626	
仕入債務 ※1	2,823	2,169	△654	
前受金	1,498	666	△831	
固定負債	318	275	△42	
退職給付に係る負債	200	162	△37	
負債合計	5,883	4,214	△1,668	
純資産合計	13,242	13,250	+8	

※1 電子記録債権債務含む

連結キャッシュ・フロー計算書サマリ

(単位：百万円)

	2018/2月期	2019/2月期
営業キャッシュ・フロー	594	435
税引前利益	2,093	1,255
減価償却費	344	344
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 66	138
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 415	615
前受金の増減額 (△は減少)	△ 315	△ 843
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 152	△ 700
法人税等の支払額	△ 694	△ 610
投資キャッシュ・フロー	△ 493	△ 566
有形固定資産の取得による支出	△ 592	△ 569
財務キャッシュ・フロー	△ 499	△ 921
リース債務の返済による支出	△ 48	△ 5
配当金の支払額	△ 343	△ 343
現金及び現金同等物 増減額	△ 431	△ 1,033
現金及び現金同等物 期末残高	6,568	5,534
フリー・キャッシュフロー	100	△ 130

2020年2月期
連結業績・配当予想



連結業績予想サマリ

- 売上総利益：粗利率の1%以上改善への取り組み
- 販売管理費：グループ会社で総コストの低減
- 非医薬分野（食品・化粧品・産機）向け案件の拡販を含め、グループ総体で収益の拡大

（単位：百万円/円）

	2019/2月期 (実績)	2020/2月期 (予想)	前期比増減	
			金額	%
売上高	18,408	17,500	△908	△4.9
営業利益	1,223	1,000	△223	△18.2
経常利益	1,326	1,000	△326	△24.6
純利益	843	700	△143	△17.0
一株純利益	50.15	41.8	△8.35	△16.7
設備投資	627	700	-	-
減価償却費	344	350	-	-
研究開発費	832	750	-	-

部門別業績予想サマリ

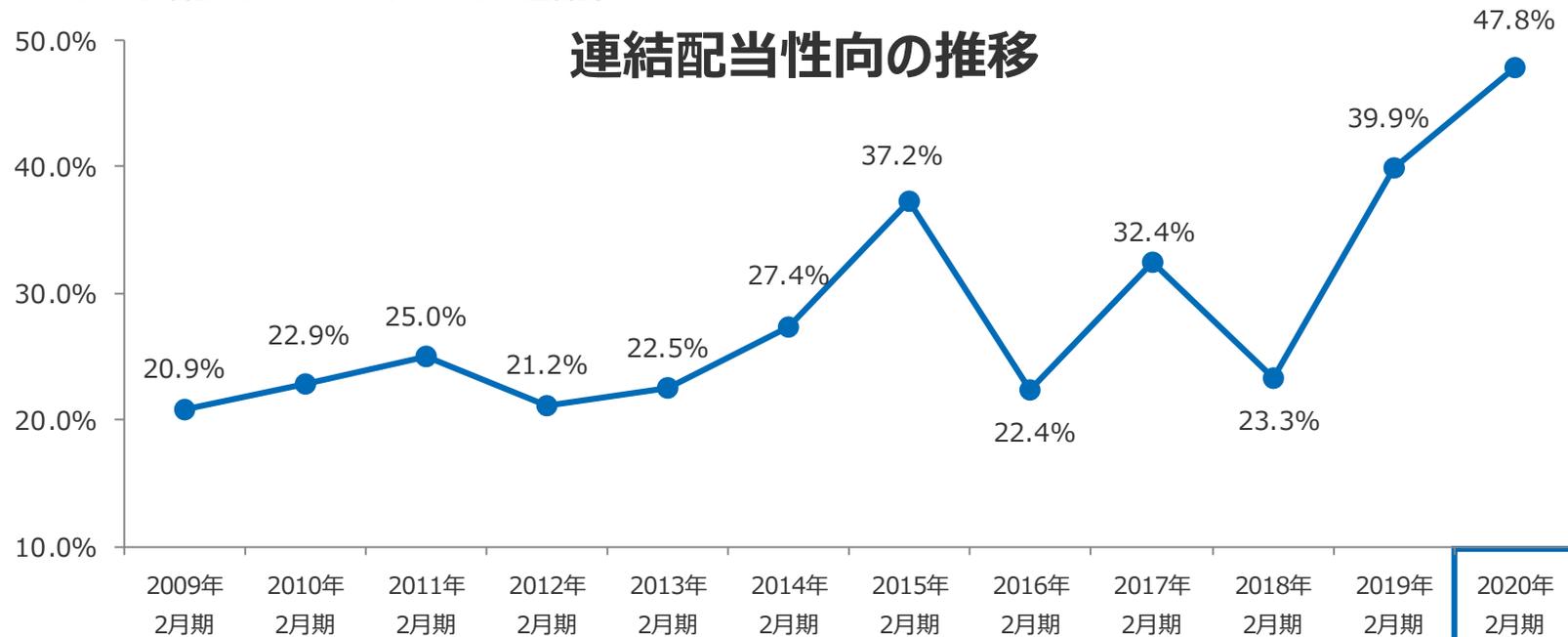
- 機械部門 : TABREXの拡販再開、海外拡販に注力
- 化成品部門 : 医薬品添加剤の国内拡販および海外向け案件の確保

(単位：百万円)

	2019/2月期		2020/2月期 (予想)		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
連結売上高	18,408	100.0	17,500	100.0	△908	△4.9
機械部門	12,368	67.2	11,000	62.9	△1,368	△11.1
化成品部門	6,040	32.8	6,500	37.1	+459	+7.6
セグメント利益	1,223	100.0	1,000	100.0	△223	△18.2
機械部門	737	60.3	-	-	-	-
化成品部門	1,024	83.8	-	-	-	-
全社、消去	△ 538	△ 44.1	-	-	-	-
為替(円/ドル：+は円高)	110.48	-	105.00	-	-	-

配当予想サマリ

- 年間配当目標は30%
- 一株当たり配当金は20円（普通配）



	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	2月期	2月期	2月期	2月期								
当期純利益（百万円）	619	563	516	608	765	787	695	961	1,064	1,477	843	700
1株当たり配当金（円）	7.5	7.5	7.5	7.5	10.0	12.5	15.0	12.5	20.0	20.0	20.0	20.0
発行済株式総数（千株）	4,600	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	18,400	18,400	18,400	18,400

（注）2009年6月1日付け及び2016年3月1日付けで株式分割1対2を実施しており、2016年2月期以前の配当金は分割調整後の金額です。

第7次中期経営計画



Copyright(C) 2019 Freund Corp. All rights reserved.



第7次中期経営計画

企業理念

創造力で未来を拓く

経営ビジョン

フロイントグループは、
「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、
豊かな生活・食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します」

大切にする価値



特別な価値創造

それぞれの分野、事業で
No.1を目指す



完全顧客視点

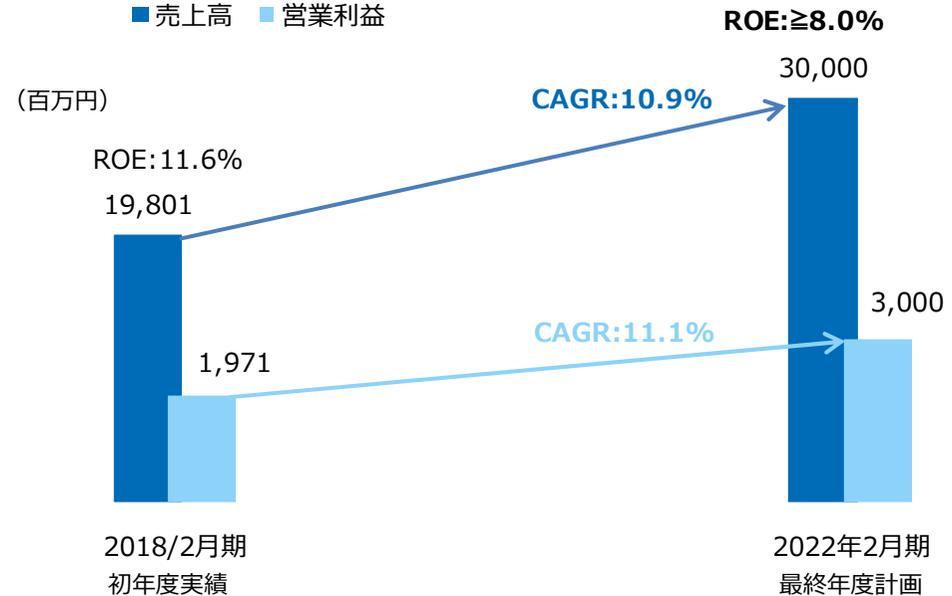
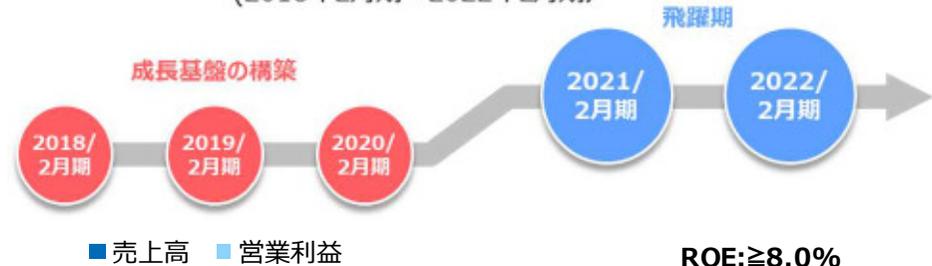
顧客、社会にとって
Only Oneの存在を目指す



ネットワーキング

グループがひとつになる

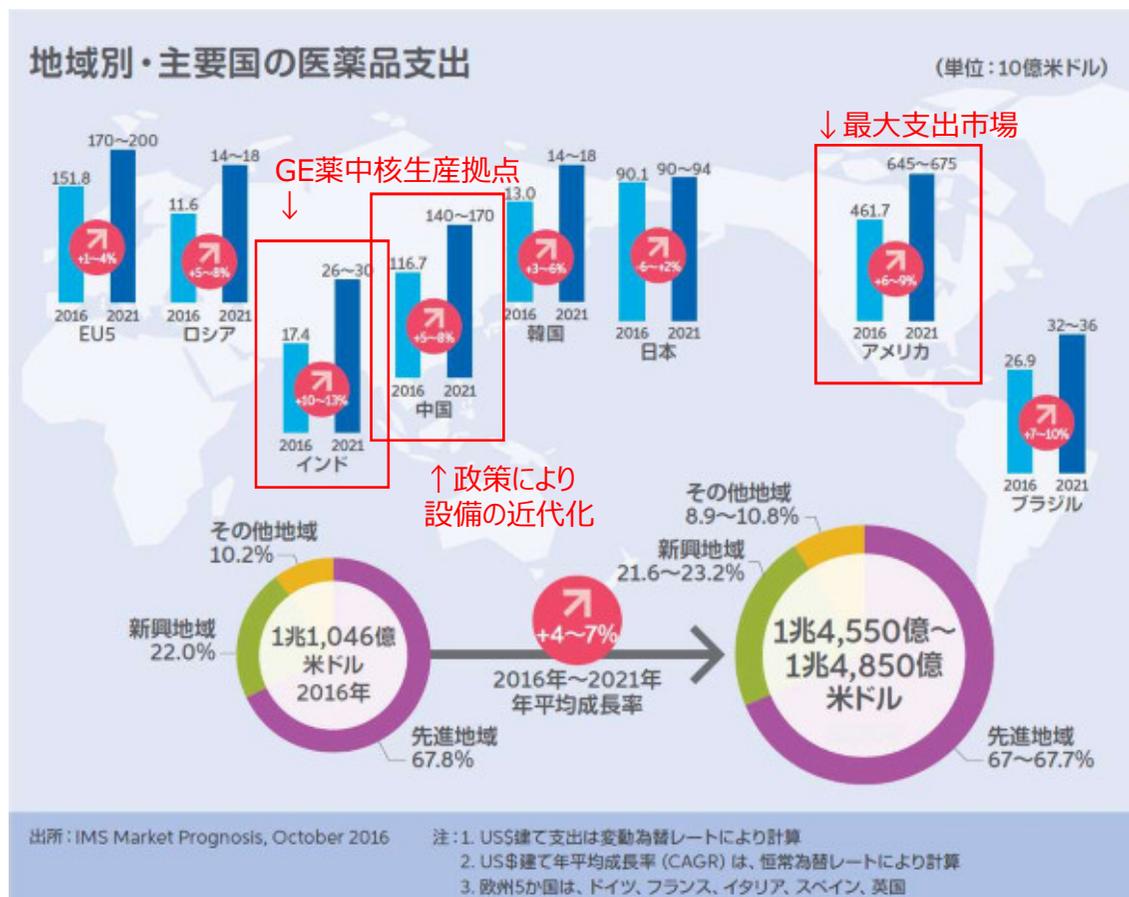
第7次中期経営計画
(2018年2月期～2022年2月期)



事業環境認識：世界の医薬品市場動向

<事業環境の前提>

- 国内医薬品市場の設備投資について、G E 80%政策の特需は一巡
- 海外医薬品市場の設備投資は、2022年以降も安定して成長（ただし不透明要素はある）
- 非医薬分野への当社技術・製品（粉碎・造粒・微粒子コーティング）の応用が可能・分野が拡大



中期経営計画 前半3年の組み立て

第55期 (2019年2月期)

- ①風土改革 (ONE FREUND)
- ②人材育成
- ③新製品の開発

機械セグメント

- 1. 新製品の投入 (TABREX)
- 2. 新製品の投入 (Granuformer)
- 3. 非医薬分野への展開

化成品セグメント

- 1. 添加剤の海外対応
- 2. 品質保持剤の海外対応
- 3. 戦力製品の開発

第56期 (2020年2月期)

- ①風土改革 (ONE FREUND)
- ②優秀な人材の確保
- ③海外展開の布石

機械セグメント

- 1. 新製品の拡販
- 2. Granuformer1号機受注
- 3. VECTOR Labの拡販
- 4. インド・パルレ社との合併開始 (PalreFreund)

化成品セグメント

- 1. 海外向けへの拡販
- 2. 品質保持剤の海外展開
- 3. 添加剤設備の増強

第57期 (2021年2月期) ~

- ①風土改革 (ONE FREUND)
- ②優秀な人材の活躍
- ③海外展開

機械セグメント

- 1. 新製品の拡販
- 2. 海外事業の拡大
- 3. コアコンピタンスの異分野展開

化成品セグメント

- 1. G E 向け添加剤の拡販
- 2. 海外向け添加剤の拡販
- 3. CDO案件の開始

第7次中期経営計画：2年間の進捗状況

	2019年2月終了時点での成果
事業創出	
・ 新たな事業領域の開拓	コアコンピタンス（粉砕・造粒・微粒子コーティング）の非医薬分野への応用
・ グローバル展開の加速	拡大市場（インド・中国）におけるラボ設置の検討・工場増設計画策定中 インドに当社グループ初拠点（ParleFreund社）設立
・ オープン・イノベーション （外部との事業連携）	スプレードライなど、低分子医薬品以外に関わる装置への参入準備
・ 顧客・取引先との共栄モデル開発	顧客工場の運営効率化へのメンテナンス業務の受託
・ サービス事業の基盤確立	CDO（臨床開発機関）事業の準備完了
技術開発	
・ グループ内融合	日・米グループ間での技術・製品開発の融合
・ 共同開発	連続生産設装置における機能別アライアンス
・ アカデミアとの連携	次世代技術における研究開発、実験の連携
経営基盤	
・ 業務プロセス改革	部品管理のデータ管理の一元化による業務効率の改善
・ 次世代人材の育成	国内・外グループ間での人材派遣・交流の実施などとおして、グローバル人材の育成

(参考資料)

- ・ プロフィール
- ・ セグメント情報

プロフィール

- 社名 : フロイント産業株式会社
 - 設立 : 1964年4月
 - 代表者 : 代表取締役社長 伏島 巖
 - 所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号
 - 資本金 : 10億3,560万円 (2019年2月末現在)
 - 売上高 : 198億円 (2019年2月期 : 連結)
 - 従業員 : 372名 (2019年2月末現在 : 連結)
 - 事業内容 : 機械事業 …… 造粒・コーティング装置等の製造販売
化成品事業 …… 医薬品添加剤、食品品質保持剤等の製造販売
 - グループ会社 : FREUND-VECTOR CORPORATION
フロイント・ターボ株式会社
Parle Freund Machinery Private Limited
-

フロイントグループ各社と R & D 拠点

フロイント産業
株式会社

フロイント・ターボ
株式会社

FREUND-VECTOR
CORPORATION

神奈川県横須賀市

米国/アイオワ州

独創的技術での
グローバル化を
積極的に推進



技術開発研究所 (静岡県浜松市)



マリオン・ラボ (米国/アイオワ州)

国内ユーザー

機械装置/
化成品の販売

海外ユーザー

機械装置/
化成品の販売

ParleFreund (インド)

ミラノ・ラボ (イタリア)

ビジネスモデルの特徴は「Pen」と「Ink」

1. 機械部門



- 医薬品、食品、ファインケミカルなどのさまざまな分野向けに造粒、コーティング装置などを製造・販売
- コーティング装置の国内販売シェアはトップ
アジア市場に加え、米国子会社の欧・米展開も加速
世界で製剤技術と機械装置を唯一共有する
- 造粒・コーティング技術に粉碎・分級技術を融合させることで産業向け装置の拡販も注力

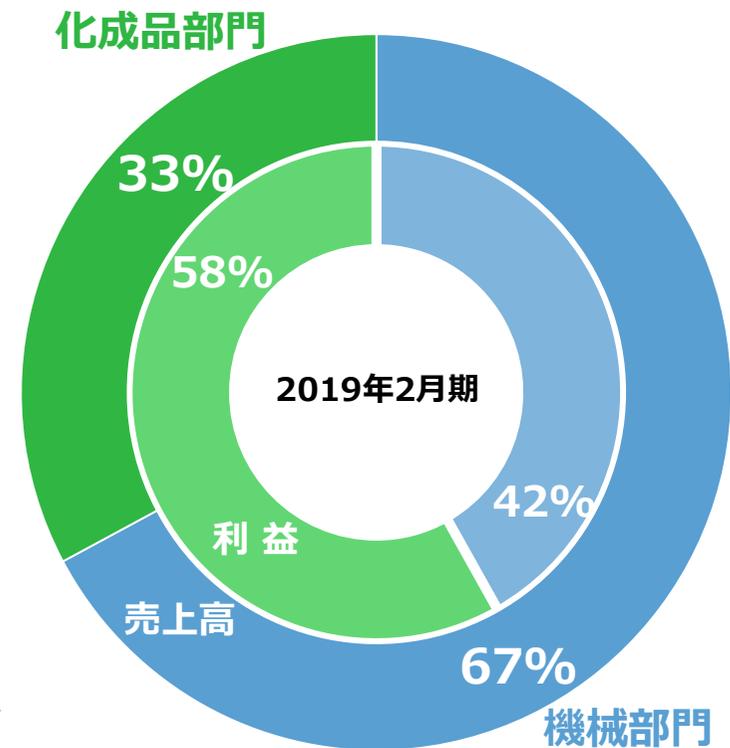
2. 化成品部門



- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などを製造・販売
- 医薬品添加剤は、GMP※1対応設備で生産
- 食品品質保持剤は、さまざまな食品の品質保持に利用され、安全な食生活に役立つ
- 造粒・コーティング技術を用い、ユーザーとの共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化

※1 GMP : Good Manufacturing Practice

セグメント別 売上高及び利益構成



連結売上高 184.0億円

連結営業利益 12.2億円

グループのビジネスフィールド

- 医薬品の製造工程に基づくフロイントグループの事業領域



機械部門：医薬品会社向け造粒・コーティング装置が主力

- 機械部門は、医薬品向け業界が83%、産業機械向けが17%
- 医薬品会社向けの造粒装置やコーティング装置が主力、錠剤印刷機受注開始
- 産業機械向けが増加



連続造粒装置
(グラニューフォーマー)



自動錠剤
コーティング装置
(ハイコーター FZ)



錠剤印刷装置
(タブレックス・レボ)



攪拌造粒装置
(バランスグラ)

機械部門：グループ資源の有効活用

製造面

海外向け仕様のハイコーター
(ハイコーターオリジナル)



製造



受注・販売

(インド他
アジア圏向けに販売)

開発・販売面

F：フロイント産業 F-V：FREUND-VECTOR
F・T：フロイント・ターボ

	開発	販売
ハイコーター FZ	F	F、F-V
グラニューレックス	F	F、F-V
スフェレックス	F	F、F-V
Comp 4 (制御システム)	F-V	F、F-V
フローコーター 12bar	F-V	F、F-V
ターボスクリーナー	F・T	F・T、F-V

フロイントグループの事業ポートフォリオ

※1 事業分野における「△」は、一部製品供給を行っていることを示します。
※2 内製工程における「△」は、一部製造委託を含むことを示します。

部門	事業会社	事業分野 ※1		内製工程 ※2		
		医薬品	非医薬品	開発・設計	製造	テスト
機械	フロイント産業	○	○	○	—	○
	FREUND-VECTOR	○	△	○	○	○
	フロイント・ターボ	△	○	○	○	○
化成品	フロイント産業	○ (医薬品添加剤)		○	△	○
			○ (機能性食品原料)	○	○	○
			○ (食品品質保持剤)	○	△	○

化成品部門：ヘルスケア関連も拡大する製品群

- 医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などで構成
- G E 薬向け医薬品添加剤の拡販が続く

1. 医薬品添加剤

- ・直打用賦形剤
- ・吸着剤・固形化剤・流動化剤
- ・白色着色剤
- ・滑沢剤
- ・光沢剤



2. 食品品質保持剤

- ・食品添加剤
- ・食品品質保持剤



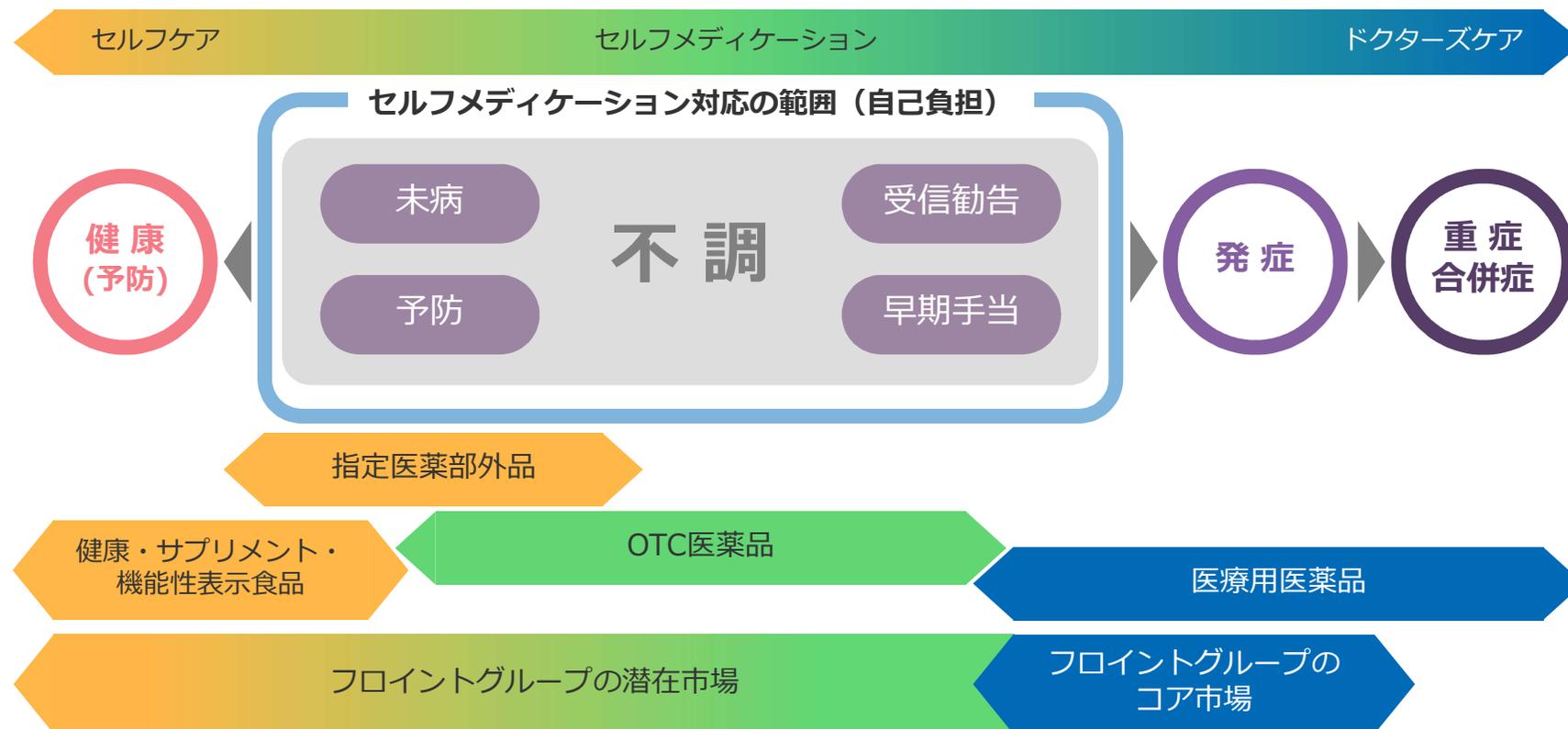
3. 栄養補助食品・他

- ・シームレスミニカプセル
- ・AQshelax (水性シエラック液)
- ・サプリメント



【持続的利益成長に向けた重点施策事例】 機械事業：国内医薬品隣接業界向け事業強化

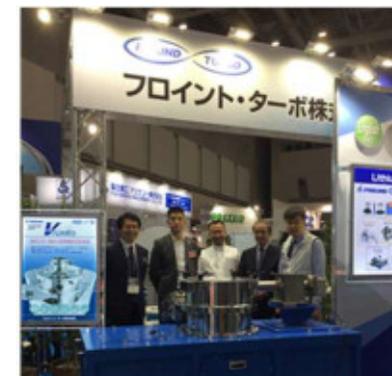
- セルフメディケーション・セルフケア推進による市場の拡がり
(造粒・コーティング装置)
 - OTC医薬品、健康・サプリメント・機能性表示食品市場の拡大
 - アジア諸国への波及



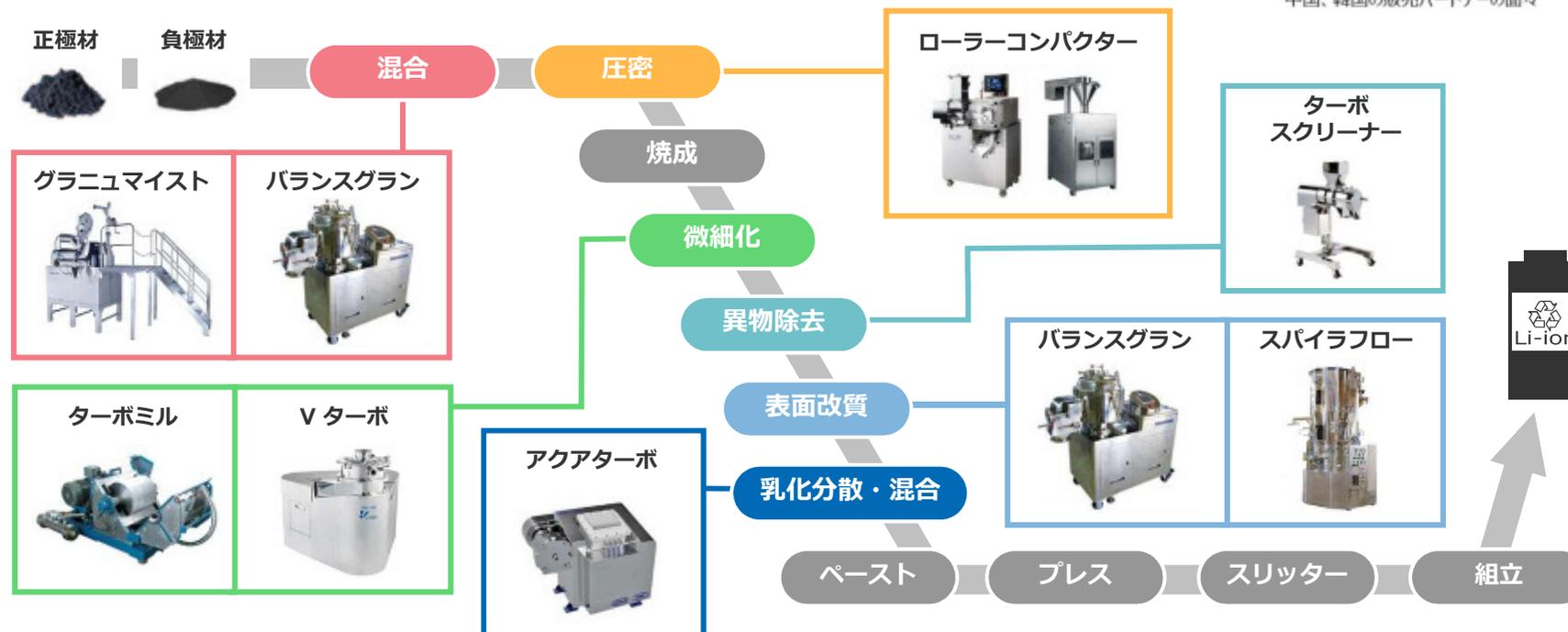
出所：日本OTC医薬品協会 グランドデザインに関する記者会見配布資料をもとに当社にて作成

【持続的利益成長に向けた重点施策事例】 機械事業：産業機械関連のグローバル化加速

- リチウムイオン電池電極材製造をカバーする製品ラインナップ
 - 一連の工程をカバーする製品ラインナップ。引き合いに対し複数装置を提案
 - 中国・韓国主要電池生産国への装置納入を完了。量産稼働開始と増産の再受注
 - 2018年のM&Aにより得た製品も既に納入・稼働を開始



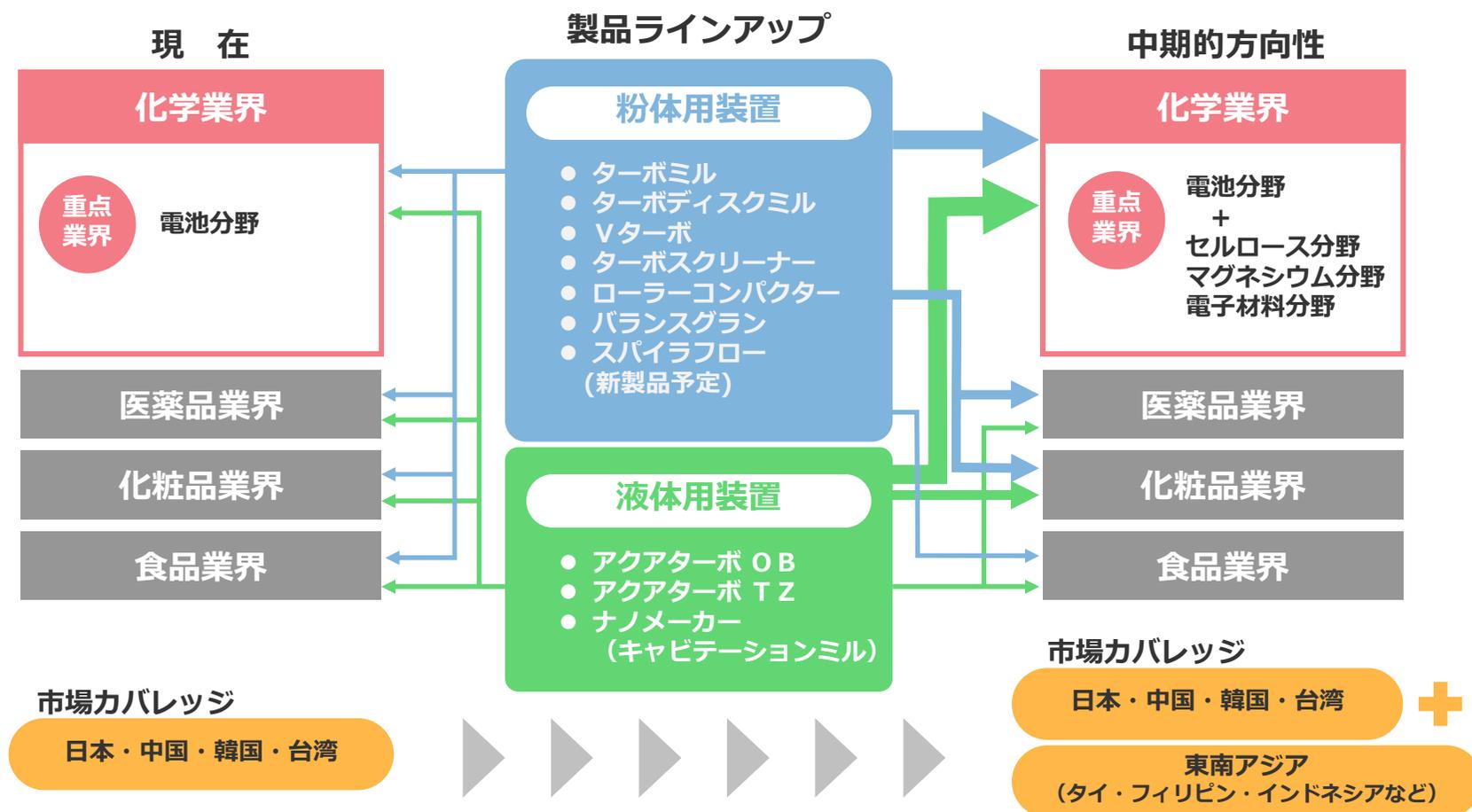
第9回二次電池展 バッテリージャパン2018のフロイント・ターボ社ブースに説明員として参集した中国、韓国の販売パートナーの面々



【持続的利益成長に向けた重点施策事例】

機械事業：産業機械関連の業界・市場カバレッジの拡大

- 化学、医薬品、化粧品業界への注力
- タイ、フィリピン、インドネシアなどのASEAN市場への参入



フロントグループ ディスクロージャーポリシー

1. 情報開示の基本方針

当社は、広く社会に信頼される企業として、経営の透明性向上を重要な責務のひとつと考えています。その考えに基づき、すべてのステークホルダーの皆さまに、会社情報の公平かつ適時適正な開示を継続的にを行います。

2. 情報開示の基準

当社は、会社法、金融商品取引法などの関係法令および当社が上場する証券取引所が定める適時開示に関する諸規則にしたがって、情報開示を行います。

当社は、関係法令および適時開示に関する諸規則に該当しない情報であっても、株主・投資家の皆さまの投資判断にとって必要であると考えられる情報については、積極的に開示いたします。

3. 情報開示の方法

当社は、東京証券取引所の提供する適時開示情報伝達システム（Timely Disclosure network、以下「TDnet」という）を通じて情報を開示いたします。TDnetにより開示した情報は、情報開示の適時性・公平性に配慮し、速やかに当社のインターネットホームページに掲載いたします。

そのほかの情報についても、適時開示の趣旨に則り、プレスリリース、当社のインターネットホームページへの掲載などにより公平かつ迅速に開示いたします。より多くのステークホルダーの皆さまに分かりやすい開示を行うため、開示情報は日本語とあわせ、その英訳の開示に努めます。

4. インサイダー取引の未然防止

当社は、内部情報の適切な管理および株式などの売買などについて遵守すべき基本事項を社内規則に定め、インサイダー取引規制の周知徹底と株式などの売買管理体制の適切な運用により、インサイダー取引を未然に防止します。

5. 沈黙期間

当社は、決算情報の漏洩を防止し、法令遵守および公平性を確保するため、各四半期決算期日の翌日から当該決算発表日までを「沈黙期間」と定めます。当該期間中は、決算に関連するコメントや質問・照会に対する回答は差し控えさせていただきます。ただし、業績が予想と大きく乖離する可能性がある場合には、適時開示に関する諸規則に従い適時適正に開示いたします。

6. 将来予測について

当社が開示する情報の中には、業績予想以外にも戦略、事業計画などの将来予測に関する情報が含まれておりますが、これらの情報は作成段階において入手可能な情報をもとに判断したものであり、その後の経済情勢や市場環境の変化などによって、将来予測は大きく異なる可能性があります。

(2017年3月27日制定)

I R活動の方針

当社は、2017年3月27日に取締役会で決定された以下の方針に基づきIR活動を実施しています。

株主・投資家との建設的な対話に関する方針

当社は、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざし、株主・投資家の皆様との建設的な対話を積極的に進めます。当社の経営方針や経営状況、企業文化をわかりやすく説明し、株主・投資家の皆様のご理解を得て、「FREUNDファン」として継続的にご支援いただけるように努めます。

1. 推進体制株主・投資家の皆様との対話

IR担当部署のコーポレート・コミュニケーション部が担い、社長が統括します。また、IR管掌取締役が社長を補佐します。株主の皆様との対話を促進するため、社内に関連部門は、開示資料の作成・審査や必要な情報の共有など、積極的に連携を図り、公正且つ迅速に情報開示を行います。

2. ステークホルダーとの対話

当社は期末及び第2四半期の決算説明会（第1・3四半期はスモールミーティング）を実施し、その情報は当社ウェブサイト公開します。また、中長期経営計画を策定した際には、経営戦略や経営計画についてわかりやすく説明いたします。さらに、機関投資家への訪問も積極的に実施し、経営方針や業績の説明を行います。また、証券会社主催の投資家フォーラムや個人投資家説明会等にも参加します。

株主通信やFREUND Report（統合報告書）の発行、ウェブサイト専用ページ（<http://www.freund.co.jp/ir/>）の開設などにより、事業や財務情報とともに財務諸表に載らない資産（見えない資産）を紹介することで当社グループの企業価値を正しくご理解いただけるように、情報開示の充実に努めます。

3. 株主・投資家からの意見を社内へフィードバックする仕組み

株主・投資家の皆様との対話において把握された意見は、社長、取締役や関係各部に適宜報告し、情報を共有します。

4. インサイダー情報の管理

各四半期の決算期末日より決算発表日までの期間はサイレント（沈黙）期間とし、投資家の皆様との対話を制限しています。インサイダー情報については、社内の内部情報管理・内部者取引規制に関する規程に従い、情報管理の徹底を図っています。

〈お問い合わせ先〉
フロイント産業株式会社
コーポレート・コミュニケーション部

TEL:03-6890-0767
FAX:03-6890-0870
E-Mail : ir@freund.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <http://www.freund.co.jp>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。